

2020年度（第45回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	愛 知 大 学	研究所名等	
研 究 課 題	蓬左文庫所蔵典籍の調査および史料研究 －古代を中心に－		研究分野 文 学
キ ー ワ ー ド	①名古屋市蓬左文庫 ②駿河御譲本 ③データベース ④日次記		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
廣 瀬 憲 雄	愛 知 大 学 文 学 部	教 授	研究代表者、全体の統括、 古代関係典籍の写本系統の調査

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
浅 岡 悦 子	愛 知 大 学 文 学 部	非 常 勤 講 師	古代関係典籍の基本情報の整理
吉 田 一 彦	名 古 屋 市 立 大 学 大 学 院 人 間 文 化 研 究 科	教 授	古代関係典籍の写本系統の調査
丸 山 裕 美 子	愛 知 県 立 大 学 日 本 文 化 学 部	教 授	古代関係典籍の写本系統の調査
松 菌 斉	愛 知 学 院 大 学 文 学 部	教 授	古代関係典籍の写本系統の調査
鳥 居 和 之	名 古 屋 市 蓬 左 文 庫	文 庫 長	蓬左文庫所蔵典籍の伝来
木 村 慎 平	名 古 屋 城 調 査 研 究 セ ン タ ー	学 芸 員	蓬左文庫所蔵典籍の伝来
手 嶋 大 侑	名 古 屋 市 立 大 学 大 学 院 人 間 文 化 研 究 科	研 究 員	古代関係典籍の基本情報の整理
芝 田 早 希	名 古 屋 大 学 大 学 院 人 文 学 研 究 科	大 学 院 生	古代関係典籍の基本情報の整理
稲 垣 竣 亮	名 古 屋 大 学 大 学 院 人 文 学 研 究 科	大 学 院 生	古代関係典籍の基本情報の整理

蓬左文庫所蔵典籍の調査および史料研究

—古代を中心に—

1. 研究の目的

(1) 研究の内容と目的

- ① 本研究では、名古屋市蓬左文庫（以下、「蓬左文庫」と略称）が所蔵する日本古代史関係の典籍約120件の基礎的な学術調査を行う。
- ② 本研究の最終的な目標は、1：調査の成果を新たな目録・解題として出版すること、2：特に重要なものについては、写本系統の分析や他機関所蔵の関係写本との比較検討等を実施すること、3：調査結果に基づいて蓬左文庫ウェブサイト上のデータベースの内容を修正・増補し、可能ならば各典籍の画像を検索可能な形で公開することである。

(2) 研究の背景と特徴

- ① 蓬左文庫には、徳川家康の没後に分与された「駿河御譲本」や、初代尾張藩主義直が収集した蔵書類など、学問的・文化的に価値のある典籍が豊富に所蔵されている。しかし従来は、金沢文庫本『続日本紀』や『侍中群要』以外の古代史関係典籍の調査はほとんど行われておらず、蓬左文庫所蔵の典籍は十分に活用されているとは言い難い状況であった。
- ② そこで本研究では、蓬左文庫が所蔵する日本古代史関係の典籍を悉皆調査することで、その全貌を明らかにするとともに、蓬左文庫蔵書の形成過程を追究していく。最終的には、これらの成果を書籍として刊行し、あわせて蓬左文庫ウェブサイト上のデータベースを充実させることで、蓬左文庫所蔵の典籍が容易に活用できるようにすることを目指す。

2. 研究の計画

(1) 2020年度の調査対象

- ① 2020年度は、当初古記録類の調査を実施する予定であった。しかし幸いにも、2019年度にシキシマ学術・文化振興財団からも研究助成金を得て、同年度中に古記録類の調査を行うことができたため、2020年度には、朝儀や政務の史料として重要な、『江次第抄』・『禁秘御抄』・『雲図抄』等の儀式書など21件を、繰り上げて扱う予定であった。
- ② このうち、計画立案時において詳細な調査が必要と考えられていた写本は、「御本」（初代藩主義直の蔵書）の印記を持つ、江戸初期に遡る写本である『江次第抄』・『禁秘御抄』、江戸初期写とされている『雲図抄』や『朝野群載』であった。

(2) 2020年度の講演会・シンポジウム

- ① 本研究では、研究成果の社会還元を図るため、一般向けに講座やシンポジウムを開催し、研究成果の公表を行うとともに、蓬左文庫が所蔵する典籍の重要性を周知させるための活動も進めることを特徴としている。
- ② ただし、新型コロナウイルス感染症流行のため、2020年度には講演会・シンポジウムの開催は見合わせ、2021年度に流行状況を見計らい実施することにした。

3. 研究の成果

(1) 調査成果

- ① 新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2019年度末から蓬左文庫が閲覧を停止したため、当初は調査の続行そのものが危ぶまれていた。しかし、人数などを制限した上で蓬左文庫が閲覧を再開したことと、計画の1年間の延長（繰り越し）が認められたことにより、2019年度分のうち未了であった5件と、2020年度分の21件のうち、『雲図抄』3件『侍中群要』1件の合計4件を除く、17件の調査を終えることができた。調査にあたっては、助成金を活用して一部の対象典籍の撮影を行い、流行状況に左右されることなく調査を実施できるように配慮した。
- ② 既存の調査対象である典籍に対する検討も引き続き進められた。2019年度に実施したシンポジウムでの報告は、5. (1) ③として論文化した。また、2019年度の実績報告時点では江戸時代初期に遡る写本が見いだせなかった『類聚国史』に関しては、江戸時代後期に書写された写本群の中に、初代藩主義直と二代藩主光友が収集した写本が混じっていることが判明した。蓬左文庫の蔵書形成とも関係する徳川家康の収書活動については、富士見亭

文庫創設以前の天正14年（1586）から行われていたこと、その過程で重視されたのはもっぱら古代関係の典籍であったことが明らかになった。

(2) 講演会・シンポジウム

① 新型コロナウイルス感染症流行の影響により、これまでのような遠方から講師を招く形での講演会は開催することができなかった。その代わりに、研究代表者の廣瀬が勤務校のオープンカレッジで「古代日本の歴史文化と蓬左文庫・徳川美術館 —『万葉集』をとりまく世界—」と題する講演（2021年11月）を行い、普及活動に勤めた。

② 同様にシンポジウムも、遠方から講師を招くことはできなかったが、研究会のメンバーを中心に、2021年12月にシンポジウム「江戸幕府の書物と蓬左文庫」を開催することができた。当日の報告者・報告内容については、5. (2)を参照していただきたい。なお、5. (2)のうち①の報告は、5. (1)の④という形で論文化されている。

4. 研究の反省・考察

(1) 外部調査・内部調査

① 本研究では、蓬左文庫所蔵の典籍のうち特に重要なものについては、写本系統の分析や他機関所蔵の関係写本との比較検討等を実施することにしていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、他機関に出向いての調査はほとんど行うことができなかった。この点は、2022年度以降流行状況を鑑みながら進めていきたい。

② 蓬左文庫所蔵典籍の調査は、3. (1)①のようにおおむね終えることができたが、未了のものもあるので、今後遅れを取り戻していきたい。また、新型コロナウイルス感染症の流行により、従来のようにメンバーが一堂に会して調査を行う方式から、各自が調査をする方式に切り替えたのだが、全員が集まる機会が少なくなった分、情報の共有や意思疎通に難が出てきた部分もある。今後はZoomなども利用しながら、研究活動ができるだけ円滑に進むようにしていきたい。

(2) 講演会・シンポジウムなど

① 講演会・シンポジウムに関しては、3. (2)①②のように、従来のような形での講演会は実施できなかったが、シンポジウムは無事実施することができた。ただし、その際に痛感したのは、新型コロナウイルス感染症対策の知識・経験がある蓬左文庫職員や名古屋市博物館（シンポジウムの会場。蓬左文庫は名古屋市博物館の分館である）関係者の協力がなければ、このような催しを開くことは極めて難しいということである。本研究では幸い、流行以前からの実績があったため、両機関の協力を得ることができたのだが、今後も調査・研究を進めていくにあたっては、より一層の協力関係の構築が必要となってくるのではないかと考える。

② 蓬左文庫典籍研究会の活動（本研究の2019年度活動分）が、『名古屋市博物館年報 令和元年度』31頁の「4 調査研究(3)共同研究活動」で紹介された。①とも重複するが、今後も蓬左文庫側と協力しながら研究を進めていきたい。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

① 廣瀬憲雄「蓬左文庫本『日次記』の調査」（『蓬左』第99号、名古屋市蓬左文庫、2020年6月）

② 廣瀬憲雄「名古屋市蓬左文庫所蔵『日次記』の紹介」（『日本歴史』第873号、日本歴史学会、2021年2月）

③ 廣瀬憲雄・芝田早希「二条家本系『日次記』諸写本の比較と写本系統」（『愛大史学 — 日本史学・世界史学・地理学—』第30号、愛知大学文学部人文社会学科歴史・地理学コース、2021年3月）

④ 丸山裕美子「徳川家康による古典籍の蒐集 —「富士見亭文庫」成立以前—」（『愛知県立大学日本文化学部論集』第13号、愛知県立大学日本文化学部、2022年3月）

(2) 口頭発表

① 丸山裕美子「徳川家康の典籍蒐集 —古代史料を中心に—」（シンポジウム「江戸幕府

の書物と蓬左文庫」名古屋市蓬左文庫・蓬左文庫典籍研究会主催、2021年12月)

②浅岡悦子「蓬左本『积日本紀』の写本系統 一前田家本・紅葉山文庫本との比較一」(同上)

③廣瀬憲雄「尾張藩と江戸幕府の『類聚国史』蒐集」(同上)

(3) 出版物

なし